

# 木材ニュースレター

(財)日本木材総合情報センター

TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

## 木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(21年11月分)

1. 調査実施期間 平成21年 10月20日～11月10日

### 2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

11月分の回答企業数は43社、回収率は93.5%である。

### 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス) = { (「増加」の評価を行った回答の割合) × 2 + (「やや増加」の評価を行った回答の割合) - (「減少」の評価を行った回答の割合) × 2 - (「やや減少」の評価を行った回答の割合) } ÷ 2

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

### 4. 調査結果の概要

#### (1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		21/11月	12月	22/1月
仕入動向	国産材	△ 14.7	△ 20.6	△ 21.2
	外材	△ 20.7	△ 23.2	△ 18.8
販売動向	国産材	△ 22.1	△ 19.1	△ 24.2
	外材	△ 21.3	△ 21.3	△ 20.5
在庫動向	国産材	△ 4.7	△ 10.9	△ 9.7
	外材	△ 16.7	△ 10.3	△ 10.5

仕入は、国産材マイナスが正月以降も大きく一層深刻。外材大きなマイナス横ばいで弱い。

販売も同様に国産材、外材とも横ばいの大きなマイナスで後退基調がより鮮明となっている。

在庫は国産材、外材とも出入りあるがマイナスに変わりない。

荷動き動向年末・年始に向け、全ての項目で大きなマイナスと全てで期待失っている様相。

#### (2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	21/11月	12月	22/1月
スギ正角(グリーン)	△ 4.2	△ 4.2	△ 6.5
スギ正角(KD)	△ 2.0	△ 2.0	△ 2.1
ヒノキ正角	0.0	2.1	△ 2.2
ヒノキ土台角	△ 2.0	0.0	△ 2.1
米ツガ正角(現地挽)	8.3	6.3	△ 2.1
米ツガ防腐土台角	0.0	△ 2.0	△ 2.1
米ツガ割物(現地挽)	10.4	6.3	0.0
米マツ平角	△ 2.2	△ 2.2	△ 4.5
北洋アカマツタルキ(現地挽)	△ 6.0	△ 4.0	△ 4.2
ホワイトウッド集成管柱	8.7	6.5	0.0
レッドウッド集成平角	0.0	5.0	0.0
型枠合板(国産)	△ 5.9	△ 8.8	△ 8.8
型枠合板(輸入)	△ 4.8	△ 9.5	△ 7.5
針葉樹合板	△ 7.5	△ 7.5	△ 5.3

スギ正角(グリーン、KD)、ヒノキ正角、土台とも先行き小さなマイナスで堅調さは継続。

米ツガ正角、防腐土台角、平割はプラス～小さなマイナスと若干弱含み気配である。

米マツ平角は小さなマイナス基調で変化なし。北洋材アカマツタルキは小さなマイナスでほぼ横ばい。WW集成管柱、RW集成平角ともプラス、ゼロでほぼ横ばいと回復気配堅持。

型枠合板、針葉樹合板ともやや大きなマイナス横ばいと陰りが出てきている。

なお、荷動き動向と価格動向の勢いのずれについては引き続き注視。

1. 荷動き		コメント		
仕 入 動 向		米マツ一般材丸太では、米国材輸出価は10月積みも据え置かれた一方、カナダ材は米国材以上に現地在庫が少なく、日本向け合板用細丸太、中国向け等が好調なことから、オールド、セカンドグロスとも値上がりしている。北米の米ツガ・スプ ルース丸太も、中国、韓国向けが好調で値上り気味。(東京:米材問屋) ツガ材の仕入れ量は増えず、マツ材は多少増える傾向。(東京:米材問屋) 米加材の入荷は全く目処が立たず品不足が顕著になりつつある。現地にも丸太在庫は殆ど無いらしい。(東京:米材問屋) 納期遅れが目立ち、入荷は少ない。(東京:南洋・中国材問屋) 国産材KDの角物が動かないので工場は減産し、割物主体に生産。そのためKD柱の入荷に時間がかかる。(東京:外材集成 材) 減らしたいが現地工場の都合もあり減らない。(東京:南洋材問屋) これ以上上げないと思うので定量は仕入れている。(東京:外材問屋) 産地国の日本離れが多く聞かれる。産地の目は中国に向いている。(東京:南洋・中国材問屋) 国産羽柄堅調、構造材不振、産地引合いなお不振。(東京:国産材問屋) 入荷を少し増した。(東京:国産材問屋) 特殊な原木や製品は仕入れが難しいと思われる。(東京:特殊材問屋) 荷動き悪いため、産地も供給少なく、われわれ問屋も積極的な仕入れはしていない。(東京:国産材問屋) 10月は多少動きはあったが、11月中旬以降荷動きが少々悪くなっている。12月のプレカット工場の仕事量もあまり先が見え ない。(東海:外材問屋) 売行き悪く必然的に仕入れは少なくする。(東京:仲買小売) 先月は国産材全く仕入れず。(東京:仲買小売) 前月より悪い。開店休業の声多し。(大阪:仲買小売) 9月に大量に仕入れたため、10,12月は売り食いの状態。(大阪:仲買小売) デフレ状態。(東海:仲買小売)		
	販 売 動 向		米マツ一般材丸太京浜マーケットは、メーカーの丸太消費量が益々減少しており、廃業が後をたたない。問屋・メーカーと も危機的状況で、問屋の売り姿勢も弱い。(東京:米材問屋) ツガ、マツともにKDは好調。(東京:米材問屋) 小口ながら若干荷動き。(東京:国産材問屋) 引き合いは足りないものばかりで実需に迫力が無い。(東京:米材問屋) 顧客により仕事の明暗がハッキリしてきた。一度切れた見積話が復活する等、顧客の話が二転三転する。(東京:南洋材問屋) 10月中旬までは売行きが良かった。(東京:外材問屋) 10月は予想外に売れた。(東京:南洋材問屋) 一時的に在庫が少なくなっており各社手当てに動いている。(東京:南洋・中国材問屋) 10月はそこそこ動いた。11月は読めない。(東京:国産材問屋) まとまった注文はまずない。リフォーム、店舗の改装など納期の無い細かい造作材が主流の動き。(東京:国産材問屋) 戸建関係の仕事が全く無い。リフォーム関係はあるものの、細かく量がまとまらない。(東京:国産材問屋) 不振の極み。将来を悲観したくなる。(東京:国産材問屋) 構造材盛り上がりならず、造作材に少し動き。(東京:国産材問 屋) 今年の月平均より多少売上は増えたが、例年の秋需の盛り上がりはない。今が頂点か。(東京:国産材問屋) 特殊な材は在庫をしないと販売できない。他社があまりにも在庫がないため。(東京:特殊材問屋) 全く悪い。二番底が現実となるのでは? 見積りはおろか価格の問い合わせもない。(東京:仲買小売) 売上は基準線を超えたが、木材の売上比率は2割を切った。(東京:仲買小売) 相変わらず沈滞気味で未だ単発的な少量の荷物を動かしているだけだが、まだ先が見えない。(東京:仲買小売) 徐々に動きは出てきたが、リフォーム物件ばかりで新築物件が非常に少ない。(東海:仲買小売)	
		在 庫 動 向		今月は米マツ一般材丸太の新材入荷が無かったため、在庫の積み増しはなかったものの、相変わらず問屋の手持ち在庫は 多く、旧材が目立つ。(東京:米材問屋) 在庫が払底しつつあり、企業存続の危機である。(東京:米材問屋) 在庫は増減させない。(東京:国産材問屋) 入荷少なく、販売好調で在庫は減っている。(東京:南洋・中国材問屋) 新規入荷は依然として少ないまま。(東京:南洋・中国材問屋) 足りないサイズが増えている。(東京:米材問屋) 必要なもの以外仕入れは控えている。(東京:国産材問屋) 少ない在庫を食いつぶしている。その在庫も底をついている。(東京:仲買小売)
			2. 価格動向	
			スギ正角	現在底値だと思う。今後の需要如何では強含むかも。(東京:問屋) 先月より少し動きを感じる。(東京:仲買小売) 一時的な理由で価格が上昇しても、現状の仕事量では直ぐ底値に戻ってしまう。(東京:仲買小売)
			ヒノキ正角 土台角	正角の動き非常に悪い。土台は安定した様相だが6m13.5角、15.0角は品薄のため幾分高い。(東海:問屋)
		米ツガ	川上は上がっているが川下は変わらず。(東京:米材問屋) 割物は中部地区では使用が少ない。関東ではやや品薄で再割り工場に引合いあり。(東海:問屋) 需要少ないため入荷も少ない。価格は動かず。(東京:仲買小売)	
		米マツ平角	無風です。(東京:問屋)	
		北洋アカマツ タルキ	米マツともに特に動きなし。(東海:問屋)	
		WW・RW 集成材	やっとなし値上がりしてきたが、需要にすぐ左右される。(東京:問屋) 集成平角の売行きは悪いが川上は強い価格を提示。(東京:問屋) 秋需が思ったよりなく、やはり強気配程度で終わっている。(東京:問屋) 値上げの動きもあるが現地製品の価格があまり上がっていないので、先々値上げ幅は多少の上乗せ程度か? (東海:問屋)	
合板		価格上昇したが需要不足で弱気の横ばいに戻る。(東京:仲買小売)		